

大雨に対する農作物等管理技術対策について

令和元年10月21日
埼玉県農林部

台風第20号は今夜半にも温帯低気圧に変わる見込みですが、前線を伴って22日夜遅くにかけて西日本から東日本の太平洋側を北東へ進むため、関東甲信地方では前線と低気圧の影響で22日を中心に大雨となるおそれがあります。天候回復後の農作物等の技術対策資料を以下のとおり作成しましたので、参考としてください。

また、今後の台風第20号及び台風第21号の進路等の気象情報に十分に注意してください。

共通事項

- 1 安全を確認できるまでは増水した河川や用排水路に近づいたり、管理作業を行わない。
- 2 浸冠水したほ場では、滞水による根腐れ等を防ぐため、速やかに排水する。作付け予定ほ場が滞水した場合も、適期作業ができるよう速やかな排水に努める。
- 3 天候が安定したら、病虫害の発生を防ぐため収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

園芸用ハウス

- 1 本ぽに浸水した場合は、排水ポンプ等により強制的にほ場外に排水する。

水 稲

- 1 高水分籾を収穫する場合は、適切な扱き胴の回転数と籾の流量に注意する。
- 2 倒伏した場合、穂発芽の発生が心配されるため、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。

大 豆

- 1 排水が悪く、地力の高いほ場では、立枯性病害（茎疫病・黒根腐病等）を対象として収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。
- 2 ベと病の発生が見られたほ場では、雨により発生が増加するので、収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

野 菜

◎施設きゅうり

- 1 多湿によりべと病、褐斑病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。

◎施設トマト

- 1 多湿により疫病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。

◎いちご

- 1 浸冠水した土耕栽培ほ場では、疫病、炭そ病等のまん延が懸念されるので、銅水和剤等で葉に付着した土砂を洗い流すように防除する。

◎ねぎ

- 1 多湿により軟腐病等の被害拡大が懸念されるので、収穫期に達しているほ場では、ほ場作業が可能になり次第、速やかに収穫・出荷を行う。

◎ブロッコリー、キャベツ、はくさい

- 1 作業可能なほ場条件になり次第早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 2 土壌が流亡した場合は、株を直し、株元に軽く土寄せを行って倒伏やねじれを防ぐ。

◎ほうれんそう、こまつな

- 1 播種直後のほ場が冠水して種子や幼少作物の流亡・枯死が見られる場合は、作業可能なほ場条件になり次第速やかに再播種する。

花植木

- 1 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。
- 2 宿根アスター等の栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況の点検を行う。

飼料作物

- 1 河川増水により河川敷飼料畑のイタリアンライグラスが流亡した場合、作業可能なほ場条件になり次第速やかに再播種する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- 農産物安全課

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/shokubou.html>

- 独立行政法人農林水産消費安全技術センター(FAMIC)農薬登録情報提供システム

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm